



も、よろしくお願いします。

「持続可能な開発目標」

広島教区では、宣教司牧の大きな目標が三年毎に設定され、二〇二〇年四月、二〇二三年三月まで、「社会へのチャレンジ」というテーマになっていきます。そして一年毎に、「いのち」↓「環境」↓「平和」というサブテーマが付けられ、二〇二一年度は「環境」について考え、取り組んで行く年となっています。

皆様は、二〇一五年九月に国連で採択された『我々の世界を変革する・持続可能な開発のための二〇三〇アジェンダ』と題する具体的な行動指針を、ご存じのことでしょう。この「持続可能な開発目標」(グローバル・ゴールズ)は、「貧困に終止符を打ち、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを享受できる」ように、二〇一六年から二〇三〇年までの十五年間に達成していくべき十七の大きな目標が提示され、それぞれ目標には、さらに細かな行動指針が含まれています。

回勅『ラウダート・シ』の呼びかけ

二〇一五年九月に、国連で「持続可能な開発目標」が採択される前の五月二十四日(聖霊降臨の祭日)、教皇フランシスコは回勅『ラウダート・シ』とともに暮らす家を大切に―という回勅を公布されました。この中で、社会倫理を統一する「共通善」をその中心原理として、環境的・経済的・社会的・文化的・人間的な分野に及ぶ「総合的なエコロジー」を提唱されました(『ラウダート・シ』156参照)。

カトリック教会は、危機感を共有しながら国際社会と協調して共に歩んで行くために、教皇フランシスコが回勅『ラウダート・シ』で提言されていることを、日常生活の中で真剣に実践していくことが求められています。とくに、二〇二〇年から三十年までの十年間の取り組みが、地球の未来を左右するとも言われています。

教皇フランシスコは、『ラウダート・シ』の中で、環境というテーマに関連して、次のように述べています。「周囲の有害な影響を和らげ、混沌と不安の中でも自分の生活

を送るすべてを身に着けることで環境上の制約に応じる人物や集団が示す、創造性と寛大さは感嘆すべきものです。例えば、外見は廃屋同然の建物があるようなところで、人々は、家の内部をきれいに整えたり、あるいは、他者からの思いやりや親切に満足を見出したりしています。健全な社会生活は、一見望ましくない環境を輝かせることができず。時に、数々の難儀にもかかわらず貧しい人々が実践するヒューマン・エコロジーは、賞賛すべきものです。親しく温かなかわりが育つなら、共同体がで上がるなら、連帯と帰属のネットワークに支えられていると感じる一人ひとりの内部で環境上の制約が埋め合わされるなら、人口密集居住区がもたらす息苦しさは反撃を食らうことになりません。このようにして、どのような場所も、地上の地獄から尊厳ある生の舞台へと転じうるのです」(『ラウダート・シ』148参照)。

ヒューマン・エコロジー

広島教区が宣教司牧目標としている「社会へのチャレンジ」のサブテーマ「いのち」・「環境」・「平和」と



「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね」という意味。

私が東京カトリック神学院に入學した一九七七年の聖週間に、その年の神学校の新入生、神学科一年生、そして神学校の司祭団が典札奉仕のために関町教会に行くことになりました。関町教会の聖堂には、祭壇後方の壁に等身大以上の痛々しいイエスの磔刑像が掲げられていました。それを見た瞬間に、わたしの信仰はこの磔刑のイエスに基づいているのだと感じ、十字架の意味をもっと深く学ぼうと思うようになりました。▲イエスの十字架にはたぐさんの意味が込められています。イエスは「わたしがあなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい。」「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。」(ヨハネ15・12・13)と言われている実践なさいました。また、民数記21にある、蛇にかまれた者が、旗竿の先に掲げられた青銅の蛇を見ることよって命を得たように、イエス自身も十字架に上げられなければならぬと言われている、覚悟のほどを述べられています(ヨハネ3・14)。最後の晩餐では「これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。」(マルコ14・24b)と言われ、自分が十字架上で流す血は神と人々を結ぶ新たな契約の血だと弟子たちに教えられ、わたしたちのために聖体祭儀を定めてくださいました。▲神を冒瀆したとしてイエスを宗教上の罪で死刑に定めたイスラエルの最高法院は、ローマ総督に、実際にはいないユダヤ人の王として罪状をすり替え、イエスを訴えています。ピラトはそれを妬みだと分かっていたうえでイエスに死刑の判決を下しました。十字架上のイエスに対しては、様々な罵声が浴びせられます。それを傍観する多くの人たち。人間の醜さが浮き彫りになってきます。それをじっと我慢されているイエスと、その上はるか彼方におられる父なる神、マルコの福音書にはその間の時間の経過が書かれています。イエスを十字架につけたのは午前九時であった。十二時になると全地が暗くなりました。三時になるとイエスは大声で「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ」と叫ばれた(マルコ15・34参照)。六時間の沈黙の中で、イエスは何を思っておられたのでしょうか。▲父なる神とイエスは、人々の罵声にじっと耐え我慢し赦そうとされていたのではないかと私は思っています。神の沈黙は、わたしたちへの愛と慈しみであるのかもしれませんが、イエス様の十字架を見つめながら、私はいつもそのようなことを考えています。(瀧井英昭神父)



世界平和記念聖堂の桜

いう非常に大きな課題を前にして、わたしたちは手が届きそうにない無力さを感じたり、具体的な取り組みの難しさを感じたりすることもあります。そのような中で、教皇フランシスコが感嘆している「環境上の制約に感じる人物や集団が示す、創造性と寛大さ」、「数々の難儀にもかかわらず貧しい人々が実践するヒューマン・エコロジー」という「人間的な生態」、すなわち「人間的な生態」に目を向けたらと思います。このような「人間的な生態」(心の姿勢)は、イエス様が「山上の垂訓」の冒頭で真っ先に述べられた「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである」(マタイ5・3)という教えに通じて

いるように思います。

わたしたちが所属している教会共同体の中で、身近な地域社会の中で、「親しく温かなかわりが育つなら、共同体ができ上がるなら、連帯と帰属のネットワークに支えられていると感じる一人ひとりの内部で環境上の制約が埋め合わせられる」ことになりま

す。地域社会の種々のNPO活動やボランティア活動なども、そのことを証明しています。

「社会へのチャレンジ」の二年目にあたり、神のいつくしみと愛の福音を土台とする「ヒューマン・エコロジー」(人間的な生きる態度)として、「心の貧しさ」を大切にしていきたいと思えます。そして、わたしたちも自分が所属しているそれぞれの教会共同体の中で、連帯と帰属の意識を深めて、「総合的なエコロジー」を実現していく草の根的な力となっていきたいと思います。

中で、「親しく温かなかわり」を育ていくよい機会です。

第三回目となる今回の「教区代表者会議」は、教区創立百周年(二〇二三年)以降に、広島教区として取り組んでいくべき、いわば「持続可能な開発目標」を、皆で検討することがその目的です。

教区代表者会議の準備を  
広島教区が、今年の十一月二十三日に開催する「教区代表者会議」に向かって、現在おこなっている準備は、自分が所属している教会共同体の

教区代表者会議準備事務局が昨年おこなったアンケート調査をもとに、教区代表者会議の中で審議される具体的な提言案が作成され、皆様のもとに配付されたのではないかと思います。五つの分科会のテーマ(福音宣教、平和、多文化共生、協働、養成)に関連して、約三十の具体的な提言案が示されています。今後は、これらの提言案について、それぞれの教会共同体において分かち合いをし、教区の皆様からのご意見をいただく段階に移っていきます。これらの提言案で指摘されていることが、神様のみ旨に一致し、真に有益で実現可能な目標となり得るのか否か、皆様からの忌憚のないご意見を、お寄せいただければと思います。

初代教会の信者のように

教区創立百周年後の新たな歩みを模索するため、聖霊の降臨を受けて誕生したばかりの初代教会の信者たちの「ヒューマン・エコロジー」を思い起しましょう。使徒言行録の中で、以下のように述べられています。

「ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった。彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。・・・信者たちは皆一つになつて、すべての物を共有にし、財産や持ち物を売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った」(2・41〜44)。

①「使徒の教え」は、使徒たちがイエス様から教えられた福音を学び、それを生きること、

②「相互の交わり」は、福音を土台として、「親しく温かなかわり」を育て、共同体をつくること、

③「パンを裂くこと」は、イエス様が残された「いのちの糧」を分かち合う感謝の祭儀(ミサ)のことです。教会共同体を築くために、よき牧

者であり、頭であるイエス様のみことば(使徒の教え)といのちのパンを共有することが、その基礎です。

④「祈る」ことは、日常生活の中でイエス様と共に生きるために、その助けを願うこと、

⑤「すべての物を共有に」するとは、生活に必要なものを分かち合うという精神です。

種々の困難に直面している小さな教会であっても、聖霊の助けに信頼して、良き牧者であり、頭であるイエス様の声を聞き分け、共に歩もうとするならば、福音をのべ伝え、神のいつくしみと愛を証しする力は衰えていくことはありません。教会の「宣教力」は、教会の規模に比例しません。

「教区代表者会議」を一緒に準備しながら、わたしたちは、初代教会の信者たちの「ヒューマン・エコロジー」を思い起こし、それを現在の教会の中で実現していきたいと思えます。どうぞ、よろしくお願ひします。

# 二人の新司祭 叙階式

使徒ヨハネ <sup>バク</sup> 朴 <sup>グンベ</sup> 根培 新司祭

パウロ <sup>まさのり</sup> 三宅 仁孝 新司祭

三月二十日、世界平和記念聖堂（カトリック幟町教会）で、白浜満司教司式により、朴根培助祭、三宅仁孝助祭の二人が司祭叙階の恵みを受けた。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、叙階式は、参列者を百六十人に制限して行われた。叙階式に参列できない人のために、式の様子はYouTubeで配信をされた。叙階式の終わりに、新司祭の任地が白浜司教より発表され、朴新司祭は徳山教会と下松教会の助任に、三宅新司祭は、幟町教会の助任として派遣される予定。



叙階式の様子

愛する信者の皆様！

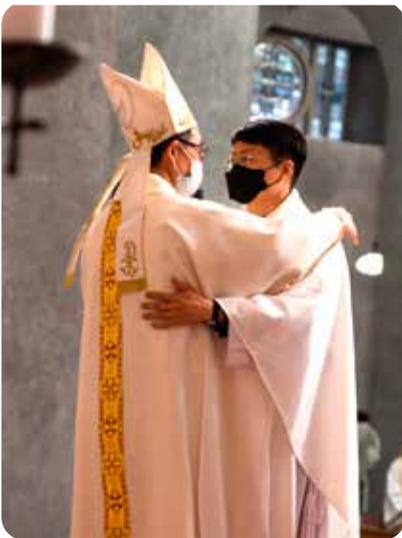
<sup>バク</sup> 朴 <sup>グンベ</sup> 根培 新司祭



イエス様の限らない恵みと皆様のお祈りのおかげで、去る三月二十日に司祭叙階を受けることになったことに対して、心より感謝の気持ちでいっぱいです。

新型コロナウイルス感染状況にもかかわらず、幟町教会に直接お越しいただき、私の司祭叙階式を祝ってくださいました信者の方々に心より感謝の言葉を伝えたいと思います。そして、新型コロナウイルス感染状況で司祭叙階式には直接来られませんが、祈ってください、お祝いをしてあげてください。信者の方々にも心より感謝の言葉を伝えたいと思います。

一年間過ごした岡山教会の信者の方々に感謝の気持ち伝えたいと思います。



白浜司教と朴新司祭

す。一年という短いだけでは、ない尊い時間を一緒に過ごしながら、私に送ってくださいました大きな愛とお祈りは長い間、忘れることができないと思います。そして、私の出身教会である観音町教会の信者の方々にも感謝の気持ちを伝えたいと思います。足りない私をいつも記憶してください、私のために祈ってください、その大きくて深い愛を心の中におさめて生きて行きます。

愛する信者の皆様！皆様のお祈りと愛のおかげで私が司祭叙階を受けるようになったことを、私はよく知っています。そのお祈りと愛に少しも報いるよう、これから司祭として謙遜に祈りながら生きていきます。最後に、私が謙虚な司祭として生きていけるように信者の方々のお祈りを願います。

これからも

よろしくお祈りします

<sup>まさのり</sup> 三宅 仁孝 新司祭



広島教区の皆様、こんにちは。三月二十日に叙階の恵みを受けたきました新司祭の三宅仁孝です。新型コロナウイルスの影響により人数の制限などが行われている中でしたが、無事に叙階式を行うことができましたことを、神様に感謝したいと思います。そして、司祭の道を志し、司祭叙階式が行われるまでの間、祈りとご支援をくださった多くの皆様、ありがとうございました。大変なことや不安に思うことなど様々なことがありましたが、多くの方に支えられながらここまで来ることができました。これから、司祭の道を歩んでいくこととなりますが、子どもの頃は司祭の道を歩むことになるのは想像もしていませんでした。子供の頃から教会でミサに与かってはいましたし、教会学校にも参加してはいましたが、司祭になりました。



白浜司教と三宅新司祭

いと思うことはありませんでした。今以上に引つ込み思案で、人と話すのも苦手だった私には、大勢の前に出て色々としなくてはならない司祭は、将来の選択肢の候補にすらなっていないませんでした。ところが、そんな風に思っていた私が、司祭としての道を歩み始めることになりました。子供の頃には感じていなかった神様からの司祭への招きにこたえて、これからは生活していくことになりました。

しかし、一人前の司祭となるためには学ばなくてはいけないこと、成長しなければならぬ部分はまだまだ沢山あります。神学校で多くの事を学びました。色々な人の、色々な話を聞く機会もいただきました。それでも、司祭に必要なことのほんの一部しか触れられていないと思えます。今の自分には思いもよらないことや、困難なことがこれから待ち受けているでしょう。それでも、いつも共にいてくださる神様に信頼し、困難に感じることも勇気をもって踏み出していければと思います。そして、そのように進んでいくためには皆様のお祈りの力が必要になってきます。神学校での生活を終えて感じていることは、決して自分一人の力だけで歩める道ではないということです。多くの人の祈りや励ましの言葉、ご支援があったからこそ司祭叙階の恵みをいただく事ができました。これからも、しっかりと司祭として歩んでいけるように、お祈りいただけたら幸いです。また、私と同じように司祭を目指し、神学生として生活している後輩たちのためにもお祈りください。

まだまだ未熟な部分が多いですが、一生懸命務めを果たしていきたいと思えます。よろしくお願いたします。

司祭叙階

おめでとつございます

下松教会

原田豊己神父

司祭叙階

おめでとつございます

福岡教会

牧山美好<sup>みよし</sup>神父

司祭叙階のために長い時間が必要でした。神様の声に聞き従うという最初の思いを大切にすることは、旧約の預言者エレミヤに通じるものがあるようにおもいます。エレミヤは神からの呼びかけに躊躇しながらも応えてゆきます。自分に与えられた使命がいかに大変なものかは、「エレミヤの独白」(二十章)に現れます。それでも神への信頼と忠実を揺るぎません。このように時間をかけて神の導きの中で神の言葉を伝えるという預言職が養成されてゆきました。

お二人に与えられた司祭叙階のお恵みを、皆さんと心を合わせて神様に感謝したいと思います。

コロナ禍にあつて司祭職が問われている現在、私たちの司祭職も神から養成されているのかもしれない。ともに集まりミサをささげ、神の言葉に養われることが制限されている中であつて、集まれない思いを祈りにかえていくことを司祭職の中心に置きたいものです。

三宅仁孝神学生は、私が以前いた新田原教会(福岡県行橋市)で、一年間、宣教司牧実習をしました。週末になると福岡市内にある神学院キャンパスから、バスと電車を乗り継いで三時間近くかけて来ていました。

朴神父様、司祭叙階  
おめでとつございます

岡山教会 小藪英治<sup>こやぶえいじ</sup>

当時はふりかえると、なつかしい思い出がよみがえってきます。仁孝君といるとき、私は不思議と安らぎをおぼえました。静かなどつしりとした佇まいからくるのでしょうか。食事の際、話すのはほとんど私でしたが、仁孝君は笑いながら聞いていました。典礼のなかで詩編を歌うとき、また共同祈願を先唱するときの力強い声が印象に残っています。

この喜びを私達の主イエス・キリストに感謝致します。この手紙を書いている時はまだ助祭でおられますが、ここからは朴司祭、朴神父様と書かせていただきます。朴神父様が岡山教会に赴任されてもう少しで一年になります。ですが司祭になられたら別の教会に行かれると聞きました。正直なところ大変残念に思っております。もっと沢山一緒に活動したかったです。ですが、色々考えますと朴神父様もその気持ちは一緒



叙階式に参列した司祭団 (世界平和記念聖堂)

パウロ三宅仁  
 孝神父様叙階式  
 おめでとうござ  
 います、倉敷共  
 同司牧の教会出  
 身者から新しい  
 神父様が生まれ  
 た事を教区特に  
 一粒会の皆さん  
 と共に喜び感謝  
 いたします。神  
 学生となって八  
 年という月日の  
 歩みの中、時に  
 は走り、ある時  
 には木陰で立ち

であるのではないかと思いま  
 す。  
 朴神父様が岡山に赴任され  
 た時は、ちょうどコロナ禍の  
 影響で世間が騒がしくなり始  
 めた頃で、朴神父様とも「こ  
 れをやるう！」と思い描いた  
 事が殆ど出来ずに歯痒い思い  
 をされたのではないのかと思  
 います。ですが、全ての起こ  
 る事が主の思召しである  
 と捉えるのであればこれも何か  
 の習わしと思えます。そう思  
 うと世の中が落ち着きを取り  
 戻した頃、何らかの形で朴神  
 父様の活動報告が私達の元に  
 届けば大変喜ばしい事であり  
 ます。その時は又一緒に手を

感謝と喜びのうちに

倉敷教会 明神昇

取り合って出来たらと思っ  
 ております。  
 朴神父様と私は同年代とい  
 う事もあり互いに色々とい  
 い合える仲だと思っております。  
 共に過ごせたこの愛おし  
 い日々を私達の主に心から感  
 謝致します。  
 そこで朴神父様、一つお願  
 いがあります。どうか子供達  
 が憧れる司祭になつて下さ  
 い。そして子供達をいつも導  
 いて下さい。朴神父様のご健  
 康とご活躍を心から切に願っ  
 ております。

止まり、また歩き出す日々そ  
 のなかで、求めていたものと  
 出会ったのではないでしょう  
 か。倉敷地区水島・玉島・倉  
 敷三教会で活動していただき  
 特に倉敷教会では冬休みで降  
 誕祭に毎回お手伝いに来て頂  
 き、時にはプレゼントのサン  
 タクロース役をお願いした事  
 が思い出されます。また練成  
 会では子供たちと語らつてい  
 た姿、さらに初めての説教を  
 頂いた時も、流暢な言葉で伝  
 えるよりも、三宅神父様はい  
 つも通りのぼくとつとした話  
 し方で、年配者の多い聖堂の  
 中で一語一語言葉をていねい  
 に選んでお話しされ、後で胸に  
 スツと入ってきてとても良  
 かったと聞きました。これか  
 らも三宅神父様らしいお話し  
 持ち味を、広く次に続く人た  
 ちに語っていただきたいと思います。  
 混沌として先の見え  
 ない社会ですが倉敷共同体  
 は、あなたを生み育ててくださ  
 ってください。すべての方に、  
 召命の恵みに感謝しともに喜  
 びを分かち合い、三宅神父様  
 の出身教会として今もこれか  
 らも共にいます。

書き切れないほどの感謝

岡山教会 村木英子

朴助祭様は、昨年の  
 コロナ禍の中、岡山教  
 会にお越しくださいいま  
 した。歓迎会もないま  
 ま、「公開ミサ中止の  
 打ち合わせの日」、私  
 は朴助祭様に初めてお  
 会いしました。

聖週間・復活祭共  
 に、前代未聞の非公開

ミサという事態でのスタート  
 でした。この一年を振り返っ  
 てみますと、朴助祭様とは典  
 礼を通して係わらせていた  
 けたことは、とても有り難い  
 ことでした。『先唱者と朗読  
 者のための典礼の勉強会』を  
 特に考えもなく、お願いした  
 時のことです。典礼のどんな  
 内容についてですか？何人  
 ですか？場所は？参加しやす  
 い時間？など具体的に、詰め  
 てこられました。そして、勉  
 強会当日、豊富な資料、スラ  
 イド、動画等を準備して下さ  
 いました。参加者が、もっと  
 聴きたいと思われたほど、面  
 白く、完璧でした。時間を  
 守られることに、正確で、潔  
 いことにも驚きました。ここ



朴新司祭、出身教会の観音町教会信徒とともに

には書き切れませんが、助祭  
 様の言動から私は、典礼委員  
 の仲間と共に謙虚さと「典礼  
 の心構え」を学んだように思  
 います。未だ、コロナ禍の終  
 息は見えず、朴神父様の願  
 い「一日も早くすべての信者の  
 方々と一緒にミサを奉獻する  
 こと、笑顔でご挨拶できるこ  
 と」は叶いませんが、教会に  
 来られない信者の方々も心の  
 祭壇で、ご一緒にミサ奉獻に  
 与っておられることではし  
 ゃう。  
 「イエスのみ心の愛」とな  
 られた朴根培神父様に心から  
 感謝とお祝いを申し上げます。

司祭叙階

おめでとつございます

川越教会信徒 橘清典

三宅仁孝神父様。司祭叙階おめでとつございます。

私たち川越教会と三宅神父様との出会いは、もう七年も前になりますね。

二〇一四年の四月、日本カトリック神学院からの司牧実習生として来られた三宅さん。体の大きな、シャイな神学生。それが最初の印象でした。毎週のミサでの奉仕、教会学校の子供たちとの交流。真面目に誠実に勤めていらっしゃいました。



三宅新司祭、出身地区の倉敷地区信徒とともに

一年間の司牧実習を終え、お別れとなりましたが、その後、召命の道を一度お休みになったことも聞きました。数年後、神学院に戻って勉強を再開されたと聞いて、自分の教区の神学生のように喜んだの覚えています。

二〇二〇年の新年度から、三宅さんが再び川越で助祭として司牧実習をすることになり、川越教会は二度同じ実習生を迎えることになりました。

コロナ禍の中、六月まで川越教会に来ることができず、短い間ではありましたが、助祭としてのミサの務め、入門講座を務められ、特に人前で話すのが得意ではなさそうでしたね。三宅さん、助祭としての説教も一生懸命行っていましたね。

神様の僕となった三宅神父様のこれからの活躍を心から、お祈り申し上げます。そして、時間をかけて粘り強く召命の道を行ってこられたことが、これからの司牧者としての歩みの力になると信じています。

楠木修道院の土地に新しい夢

援助修道会管区長 シスター古道重子

援助修道会楠木修道院は八十五年前にフランス人の修道女によって始められました。当初から貧しい人、顧みられない人、人間の尊厳が踏みじられていた人の奉仕へと向けられてきました。

広島は先輩会員達が命を育み、福音を生きてきた意義深いまた、すべての会員が愛してやまない土地です。原爆投下の悲劇の中にあつて、自らも被爆しながら市民と共に乗り越えてきました。

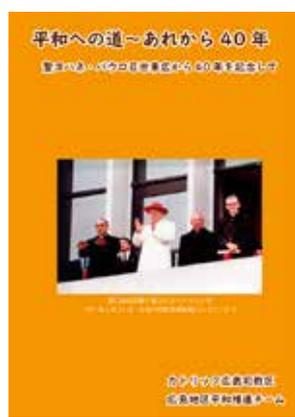
高齢化により今後、私たちが長く継続できないであろう《命へのまなざし》を引き受けて下さる方と摺理的な出会いがありました。土地・地域の方々から頂いた有形無形の恵みを思い巡

らす時、受けた恩恵に感謝すると共に、倫理的な視野をもって《命へのまなざし》の継承を願い、援助修道会は社会福祉法人「四季の会」に土地を委ねました。二〇二二年三月に地域に根差す特別養護老人ホーム、地域交流センターが「四季の会」によって完成予定です。会員が高齢化し、小さく、弱くなったお陰で皆様と一緒に夢を見る事が出来ます。神の計らいは限りなく生涯わたしはその中に生きる。



楠木修道院聖堂み摂理のマリア

平和への道～あれから40年 聖ヨハネ・パウロII世来広から40年を記念して 小冊子 広島教区内に配布



制作：広島地区 平和推進チーム 発行：2021年2月25日

一九八一年に聖ヨハネ・パウロII世が広島に訪問されてから四〇年。当時の若者がどのような影響を受け、それを生かしてきたか、六名の方に語っていただきました。

感謝

香典返し

服部神父様のご母堂、故服部節子様葬儀のお花料のお返しとして、広島教区一粒会へ献金をいただきました。お礼とご報告を申し上げます。

広島教区 一粒会



祇園教会信徒会館 鉄骨造2階建 敷地面積728.05m<sup>2</sup>

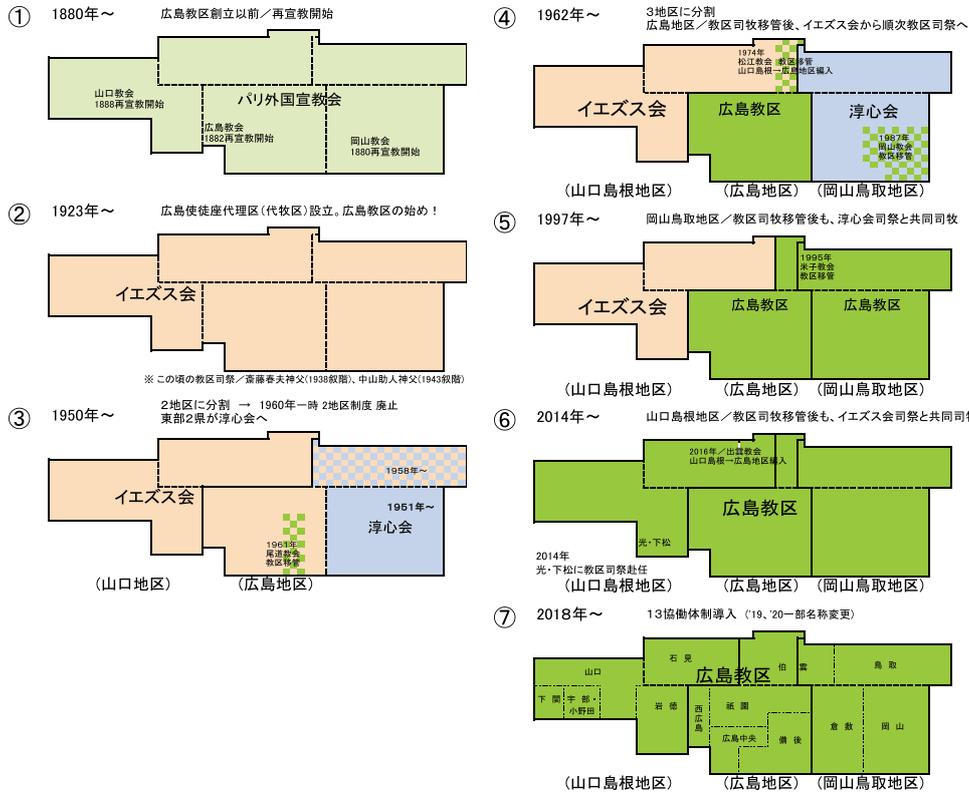
祇園教会の

信徒会館建設

祇園教会の信徒会館・司祭館の建設が完了した。待ちに待った会館でお茶を飲み、おしゃべりをし、共に学ぶ機会がもてることになる。

近隣の人々も会館で交わりをもち、外国からの人々も共に信仰を分かち合うことができるので、楽しみである。

# 広島教区 司牧区域 変遷図



## 広島教区百年の歩みをたどる (3)

今回は、広島教区内の司牧がどのような変遷を経て今日に至ったか、その概要です。

①明治期に再宣教がパリ外国宣教会から開始。

②広島代牧区設立を機に、イ

エズス会と交代。

③広島地区(広島・鳥取・岡山)と山口地区(山口・島根)の二地区に分割し、広島地区の東部二県が淳心会の司牧に。

④教区の統一した主導へ向け、順次教区司牧体制への移行を目指す。先ず広島地区を二つに分け、西

側を教区に司牧移管。イエズス会司祭から司祭への司牧体制を目指す。(三地区体制へ)

⑤前記東側(岡山鳥取地区)を教区司牧に移管し、淳心会との共同司牧体制に移行。

⑥山口島根地区も教区司牧に移管。なお移管後もイエズス会との共同司牧体制。

⑦三地区体制とは別個に、教区内の小教区等を十三の協働体として組織化。司祭の減少高齢化に対応し、小教区間の効率的な協力を目指す。

修道会から教区への司牧移管や三地区体制、そして協働体制と、広島教区の組織は時代により変遷してきた。(教区百年史編纂委)

## 広島教区 司祭人事異動(新任地↑前任地)

\*異動時期はいずれも復活祭明けから

《イエズス会》

ヴィタリ神父

嶋町協力↑教区外から

清水弘神父

サバティカル↑祇園主任

恩地誠神父

防府主任↑萩主任

アレックス神父

萩主任↑防府主任代行

高山親神父

祇園協力・長束修道院副院長↑祇園助任

李相源神父

祇園主任↑教区外

柴田潔神父

教区外↑徳山主任

《淳心会》

アンリ神父

サバティカル

↑倉敷・玉島主任

レイモンド神父

倉敷・玉島主任

↑倉敷・玉島助任

シルベスタ神父(新司祭)

倉敷・玉島助任

《フィリピン宣教会》

ジョン神父

津山助任

↑岡山・岡山南協力

ダン神父

福山助任↑教区外から

《釜山教区司祭》

沈相潤神父

日本語研修、岡山協力↑

日本語研修・司教館在

金洪錫神父

出雲主任↑津山主任

朴孝鎮神父

釜山教区↑防府主任

《教区司祭》

原田豊己神父

徳山・下松主任・山口島根地区長兼務↑下松主任

瀧井英昭神父

観音町主任・平和の使徒推進本部長兼務↑観音町主任

野中泉神父

三篠主任・教区本部事務局長兼務↑三篠主任・平和の使徒推進本部長兼務

服部大介神父

岡山・岡山南・津山主任

↑岡山・岡山南主任・教区本部事務局長兼務

福田誠二神父

松江主任↑岩国主任

金起煥神父

岩国主任

↑松江・出雲主任

久保裕己神父

祇園助任↑嶋町助任

朴根培神父(新司祭)

徳山・下松助任

三宅仁孝神父(新司祭)

嶋町助任

純心聖母会 広島修道院 三月で閉鎖

感謝のうちに

二〇二一年三月三十一日  
をもちまして純心聖母会  
は、広島支部修道院を閉  
鎖することになりました。

広島の地を奉仕の場とし  
ていただいた一九五五年よ  
り六十五年、幼児教育(清  
心保育園・清心幼稚園)と  
教会奉仕(祇園教会)の場  
を通して、皆様方からたく  
さんの支えと助けをいただ  
きながら歩んで参りまし



祇園教会敷地内にある修道院の前で

た。これまでのご協力とご  
支援に心から感謝いたし  
ます。修道会も現代の波の  
中で転換を余儀なくされま  
すが、神さまの計画に沿い  
ながら、私たちもそれぞれ  
の場のみ旨を果たして参り  
たいと思います。広島教区  
に奉仕させていただき、信  
仰の遺産(サビエル宣教の  
地、殉教の地、キリシタン  
流配の地、原爆投下、お  
二人の教皇来広など)をた  
くさんいただいている教区  
としての行事を通し、また  
様々な交流を通して  
恵みに与らせてい  
ただいたことも感謝  
したいと思えます。  
広島教区の皆様が、  
キリストの愛と平和  
の使徒として益々ご  
活躍されますことを  
心からお祈りいたし  
ます。ありがとうございます  
ございました。

外国人との関わり

J-CaRM広島便り  
幟町教会 小松公寛

昨年四月前後から、コ  
ロナの影響で解雇された外  
国人の失業保険の申請やそ  
れに付随した国民健康保険  
と国民年金の支払い免除・  
減額等への付き添いでバタ  
バタする一方、留学生から  
は、アルバイトが減少し学  
費や生活費が心配との声  
が聞こえてくるとともに時  
間の余裕ができたので、日  
語の勉強がしたいとの声  
が強くなり、毎日対応に追  
われています。

ここ数年のベトナム人  
技能実習生と留学生の増加  
に伴いベトナム語のミサを  
行う教会が増えてきていま  
す。そうした中、三篠教会  
や呉教会では彼らがクリス  
マスに馬小屋(写真は三篠  
教会)を造るなど、教会の  
運営に積極的に参加してい  
ます。呉教会では、以前か  
らフィリピン人が中心とな  
り日本人と一体となった活  
動が行われており、外国人



三篠教会のクリスマスの馬小屋

との関係を進めるうえで  
の事例となっています。

留学生たちと話してい  
ると「日本人と話したい  
が、ミサに出てもその機  
会がない」また「日本語  
の勉強もしたいが、アル  
バイトとの関係で時間が  
合わない」との声が聞  
こえてきます。技能実  
習生からはさらに職  
場の問題を訴えてくる  
人もいます。

J-CaRMの会議の中  
で、また個人的に把握  
している限りの話です  
が、広島教区内での  
外国人支援の状況を  
紹介します。

呉教会では、ベトナム  
人技能実習生を保護し  
、実習生機構や入管と  
交渉の上、

新しい職場に送り出しま  
した。榎田さんの行動力  
とバート神父さまの全  
面的な支援の結果です。  
岡山教会では中村さん  
が、日曜日のミサ後、  
ベトナムの技能実習生  
の相談、また母国に  
帰国した後、還付され  
る年金(脱退一時金)の  
源泉所得税還付手続の  
支援等されています。  
防府教会では藤本  
さんがセミナーの開  
催やコロナで苦しむ  
留学生たちの生活支  
援に取り組んでおら  
れます。日本語を含  
めてこうした活動に  
関心のある方は  
広島教区のネットワ  
ークづくりのためご  
連絡ください。

次回のJ-CaRMの  
会議は六月七日(月)に  
幟町教会で開催され  
ます。

【参考】外国人の  
状況について関心  
のある方は、「外  
国人労働者の現場  
からの報告」(部  
落解放研究第  
二十七号二〇二  
〇年十二月小  
松公寛)をご参  
考ください。  
(編集担当者ま  
でご連絡くだ  
さい。)

地区便り

コロナ禍での行事、各地区の対応

広島地区

\*「平和アピール1981」記念行事 広島地区

今年も二月二十五日がやって来ましたが、昨年から続く新型コロナウイルスの影響で、四十周年となった記念すべき『平和アピール1981』は、リモート行事で行わざるを得ませんでした。

今年の平和アピール1981記念行事は、昨年発足した『核なき世界基金』の活動状況を白浜司教様より報告していただき、協働しているNGO団体ANTI-Hiroshimaの代表渡部朋子さんへのインタビュー、カトリック学校(エリザベト音楽大学、福山暁の星中高、ノートルダム清心中高)それぞれの平和アピールを教区のホームページでご覧いただける様になっています。集うことは出来ません

でしたが、ホームページを通してより多くの人に平和アピールの精神を届けることができますように。



平和アピール1981記念行事のページQRコード

岡山鳥取地区

\*2・11平和集会

2・11平和集会が日基岡山教会とZOOMで開催(約七十名)。「コロナ

禍の社会における教会の使命」について、感染症専門家の岡大教授、土居弘幸先生、教会史専門の神学校校長、吉田隆牧師、松浦名古屋司教が話されました。コロナを正しく(科学的に)恐れ、終息へ正しく対応してゆきたい。キリスト者は古代から現代に至るまで人々とは違う対応をしてきた。防衛だけではなく、災いも全ては神のご支配の下にあると信じ、

この出来事を「信仰と価値観の本質」を見直す機会と捉えた。地上の命を超える命を知った者として積極的に信者未信者の介護に向かった。また、不安に満ちた時代には全体主義への傾向が出るので、目を覚まし世の潮流に流されず「個性(私)」として自分を確立することが重要。誰一人取り残さないという「一匹の羊」への「関わり」を大切にしたい。土居先生の最後のフリップは、炊き出しでイエスが路上生活者の中に並ぶ絵であった。

山口島根地区

\*コロナ禍のなかでのコンサート

山口サビエル記念聖堂少年少女合唱団「ステラ」は、Ave maris stella(めでたし海の星)からとった

もので、ステラはラテン語で「星」の意味。輝く空の星のように、輝きのある人になってほしいと名付けられました。岩国、防府、山口市から参加し、小学生から高校生の団員が毎週土曜

海峡からの風 59 下関労働教育センターだより

新しい風に帆を張れるのか?!

前号に中井神父が書いた通り、確かに下関労働教育センター(以下センター)にも新しい風が吹いている。が、果たしてその風に帆を張り、前へ進んで行けるのか。

センターは社会教説の理解浸透と同時に、初代トロー神父は、労働者が搾取される時代背景の中、今で言う労組ユニオンの活動をされていたと聞く。林神父が着任して以来、社会運動の拠点としての役割を次々担っていく。東ティモールの独立支援

下関の平和運動、反原発、地域の公共事業による自然破壊への反対活動、慰安婦の支援、それらを結ぶ市民運動の機関誌の発行など枚挙に暇が無い。しかし、それでは日和山の地にセンターがある意味はさほど無い。センターの存亡の危機の際、その点を突かれた。アクセスの良い、機能的な暇建物に移る方が良いのでは・・・と。センターを支える会は日和山の上にあることの良さを多くの市民に知ってもらう為、音楽を

楽しみながら交流する機会として「出会いの祝祭」や海峡花火の日にオープンハウス等を実施して来た。またカルチャースクール的な集まり、町内自治会の会議・花見の食事会に利用される様になり、大規模な改築を経て中井神父の時代、「日和山カフェ」で地域の方々の集う場となり、台風などの折には避難場所としての役割も担う。アドボカシー的な活動だけではなく、ホームレス支援の弁当作りを担当し、それを下関地区で配布する活動が続けられ、「ロクスひよりやま」ではセンターが十分に支援活動の「現場」となる。

新しい風に帆を張るには、五十肩で腕が上がらず、腰が痛くて踏ん張れない自分の肉体が悲鳴を上げ始めている。下関圏域の反貧困ネットワーク的な活動、連携組織を立ち上げたいと言う熱い思いの「帆」を支えるマスト、繋ぎ止めるロープの役割を共に担ってくれる仲間を求めている。多様性を受け入れる器はセンターにはあり、空間を超えて繋がることのできる時代でもある。Join us! (下関労働教育センターを支える会 大城研司)

2021年司祭・修道者のダイヤモンド・金祝・銀祝

- ◆**ダイヤモンド祝六十周年◆**
  - 《援助マリア修道会》福山修道院  
Sr.栗谷川せつ子 一九六一年 五月八日 ポストラント
  - 《ナムユール・ノートルダム修道女会》東広島修道院  
Sr.亀掛川登志子 一九六一年 三月十九日 初誓願
- ◆**金祝五十周年◆**
  - 《福音の光修道会》広島修道院  
Sr.数本 志乃美 一九七一年 八月十八日 初誓願
  - 《イエスのカリタス修道女会》三原修道院  
Sr.宗 タヅ子 一九七一年 十二月八日 初誓願
- ◆**銀祝二十五周年◆**
  - 《広島教区》玉野教会  
Fr.西江 和司 一九九六年 三月二十四日 叙階
  - 《カルメル修道会》教会の母マリア修道院  
Sr.村上千佳子 一九九六年 五月十九日 初誓願
  - 《援助修道会》みさき共同体  
Sr.木村 恭子 一九九六年 三月三日 初誓願
  - 《イエスのカリタス修道女会》三原修道院  
Sr.立石 麻子 一九九六年 十二月八日 初誓願

日十六時よりサビエル記念聖堂で練習をしています。レパートリーは、ラテン語による宗教音楽。聖歌隊として各教会のミサ参加、コンサート、慰問など行っています。昨年のクリスマスコンサートは、十二月二十日(日) 十八時半サビエル記念聖堂にて、コロナ感染予防のため、ステラ保護者、関係者のみを招待して行われました。



少年少女合唱団 ステラ (山口教会)

が、聖堂内に響きわたり、コロナ禍のなかで、主のご降誕を心から待ちわびている思いを感じさせていただきました。

**地区センターだより**  
**山口島根地区センター**

こんにちは。  
山口島根地区センターにお世話になっております田中園子です。

地区センターはサビエル記念聖堂隣のイエズス会山口修院そばの二階にあります。緑が豊かで樹木の枝葉の間から差し込む日光、鳥の可愛らしい鳴き声、カラスの勇ましい鳴き声等で自然の交響曲を楽しめる環境の職場です。

ここ近年、古い樹木の伐採をしましたので以前のような趣は薄れてしまいましたが、市内が見えるようになり、夏には陸上自衛隊で開催される花火を見ることができるようになりました。しかし、二〇二〇年はコロナウイルス感染症のため花火は見ることができませんでしたが、昨年の秋口にはイノシシの親子が出没！コロナウイルス感染症で自粛ムードには、お構いなしにサビエル記念聖堂前の芝生を楽しそうに走りまわっている様子を地方版のニュースでも紹介していました。山口教会の施設管理担当職員は大変でしたけど。

山口島根地区センターにおいても各地区センターと同じように教区本部事務局、平和の使徒

推進本部からのお知らせ等を各小教区、修道院、神父様方に配信、配布をしております。また、山口島根地区では、養成委員会を始め信徒使徒職団体が活発に活動しており、各委員会の特色を活かした講座、研修会等を開催しておりますのでその案内等の配信をしております。残念ながら今年度は広島司教区のテーマ「社会へのチャレンジーいのち」の研修会、信徒養成講座、祈りの体験等が中止になりました。また、担当地区となっております「教区の日」、「合同司祭の集い」も中止。

司祭の集いは三月(二〇二〇年度最後の)に開催することができました。地区宣教司牧評議会には残念ながら開催できませんでしたが、山口島根地区はオンライン化に対して積極的に動いておりませんでした。二月に財務会計担当者会議をオンライン会議となりました。なかなかの好評でしたので、これを機会に他の会議についても検討するのではないかと思います。

山口島根地区でいち早くオンラインを取り入れたのは、広島司教区カテキスタ養成委員会です。宿泊研修が中止となり、オンラインでの研修、日帰り研修を開催しているのを間近で見て



事務所入り口にあるマリア像

いますと、指導司祭の百瀬神父様をはじめ受講者の方々の意気込みを感じました。カテキスタの使命をもって活躍される日が楽しみです。

コロナ禍ではありますが、人が集うことは何か優しい気持ちになれます。今年度は静かに控えて待つ状態でしたが、来年度に向かって各委員会等は色々検討しているようです。是非とも来年度は、イキイキとした山口島根地区に戻るようにと祈っています。

地区センター職員は私人ですが、肥塚地区長をはじめ、神父様方、小教区の職員の方々、信徒の皆さまに支えていただき感謝です。ありがとうございます。

「三密」「三密」と言っていますが、ほぼ無関係の職場です。

# 青少年の活動

## JYD (ジャパン ユースティ)

二〇一九年十一月に教皇フランシスコが来日され、青年たちと対話をする時間をとても大切にされました。教皇フランシスコを通して青年たちはどんな呼びかけを与えられたのか、「集い、分かち合い



### 祈りに満ちて、 愛しい人、そして謙虚に

フィリピン宣教会  
ジョン 神父

オランダ人司祭ヘンリ・ナウエンの著書「イエスの御名で」は、聖書的リーダーシップとはどうあるべきかという問いかけについての考え方を、私に示してくれました。この問いかけで、広島教区の宣教師である三つの特質を黙想しています。



まず第一は、祈りです。ヘンリ・ナウエン曰く、指導者として、道徳性を教え、導き、高めるといふ道徳的な人であるだけでは十分とは言えず、むしろ、

たい」という思いを胸に青年たちが青年たちに呼びかける形で二〇二〇年五月を目指し、JYD (ジャパンユースティ) の実行委員会がスタートしました。私もその歩みに同伴する司祭として声をかけてもらいました。

残念ながら、コロナのために五月の集いは延期を余儀なくされました。しかし、オンラインを通し繋がりを広げ、

来たるときに向かって希望を持って歩んでいこうと、ZOOMによるJYD青年オンライン交流会が昨年の五月よりほぼ月一度のペースで始まりました。シスターや神父をゲストに呼んで話を聞き、分かち合うという形で継続されてきました。今年に入り、今年五月の開催は難しいということになり、それを目指してきた実行委員会の青年たち(ゆ

神の存在のうちに住み、そこから生きて行く人でなければならぬ。リーダーシップは、イエスとの交わりという、それ以上でもそれ以下でもない土台がなければなりません。日本のこの地での生活は、私を祈りの人へと導いて行きます。私の生活は、祈りの生活であり、そこから隔てられてはならないと承知しています。祈りは、宣教師としての私の召命の要素であり、神の存在に出会うことを習慣づけてくれるのです。

第二の特質は「愛しい人」であることです。ヘンリ・ナウエンのこの言葉を思い起こします「私はただ、愛するようにと呼びかけられている」愛に満ちた司祭でいるために、私は次のように申し上げたいと思

ます。「姿がすぐ目に入り、近づき易いように！」これは私の宣教師生活において、最も大切なことです。教区信徒が必要としているのは、父親のような、愛に満ち溢れた存在であり、とりわけ、自分の話に耳を傾け、自分の霊的旅路に助言を与えてくれる人でしょう。

最後は、司祭として謙遜の徳を積んでいかなければなりません。ヘンリ・ナウエンは、司祭職に就く者に起こり得る重大な誘惑を明らかにしています。著書「イエスの御名で」の中で、自らの評判と権力への欲に伴って起きる、司祭の驚異的な欲望を取り上げています。これはなかなか厄介で挑戦し甲斐のあるものなのですが、謙遜

は、注目されるべきイエスの象徴ですから、司祭として決して忘れはなりません。この世で私が誇れるものは何もありません。私の名譽、権力、肩

るやかに二〇名ほどがメンバーをしています)は気持ちをもう一度持ち直すために「これから」をどうしていくのか、何を目的として目指していくのかを一人一人が分かち合う時間を持ちました。青年たち一人一人がユニークな呼びかけを与えられ、それに応えている姿、熱意、「出会いたい」という思いに同伴している私の胸も熱くなりました。

第三の特質は「愛しい人」であることです。ヘンリ・ナウエンのこの言葉を思い起こします「私はただ、愛するようにと呼びかけられている」愛に満ちた司祭でいるために、私は次のように申し上げたいと思

書、名声は神のものです。MSP (フィリピン宣教会) の宣教師として私に求められるのは、謙虚な心です。それは、聖パウロのフィリピの信徒への手紙第2章5〜11節で知られている、イエスのへりくだりのようにです。イエスは神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。

実際に、三つの特質(祈りに満ちて、愛しい人、そして謙虚に)は、イエスの特質です。聖書のリーダーとして、教会共同体の人々に仕えながら、祈りの人、愛の人、そして謙る人になるようにと、この三つの特質は、私の視野を開いてくれるのです。

た。「とにかくあと一年頑張ってみよう」と、四名ほどのグループに分かれ、月一回のペースで各グループが担当し、三月から再開します。たくさんさんの青年たちに関わってもらいたいし、たくさんの方々に青年たちの思いを応援していただけたらと思います。よろしくお願ひいたします。

(中井 淳神父)

申し込みはこちらから  
右記QRコードから  
ご応募ください

朴新司祭、三宅新司祭、叙階おめでとございます。

二人の新司祭の誕生は、コロナ禍で疲弊した私たちの心に大きな喜びと希望を与えてくれる出来事となりました。この恵みに感謝して、お二人の司祭生活が、神様の祝福のうちにより豊かなものとなりますようお祈り申し上げます。(あ)